

ソーシャルワーク論Ⅳ

担当教員 豊田 保

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。
2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについてそのスキルが実践できる。
3. 相談援助の過程、知識や技術について理解でき、援助のプランニングができる。
4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解し、実践できる。
5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解し、実践できる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション ソーシャルワーク論Ⅲの振り返り （相談援助のプロセスを中心に）
2. 相談援助の展開過程Ⅱ 個別支援から地域支援へ
3. 相談援助のためのアウトリーチの技法
4. 相談援助のための契約の技術
5. 相談援助のためのアセスメントの技術
6. 相談援助のためのアセスメントの技術
7. 相談援助の介入技術
8. 相談援助のための面接の技術
9. 相談援助のための記録 意義と目的 記録の種類と活用
10. 相談援助のための記録 記録の方法とIT化 記録と倫理
11. 相談援助のための交渉と技術
12. スーパービジョンの技術 スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係
13. 事例研究・事例分析① 児童虐待が疑われた事例 ホームレスへの相談援助事例
14. 事例研究・事例分析② ドメスティック・バイオレンスの事例 認知症夫婦の事例
15. 事例研究・事例分析③ 社会的排除に対する事例

【履修上の注意事項】

1. 社会福祉士国家試験受験希望者は、必ず履修すること。
2. 予習については、授業の内容について、教科書や事例集で事前に学習しておくこと（30分程度）。
3. 復習については、授業で疑問に思ったことや支援方法を参考書等で再確認すること（30分程度）。

【評価方法】

期末試験によって評価する(100%)。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編 7 『相談援助の理論と方法Ⅰ』（最新版）中央法規出版。

【参考文献】

授業の進展に応じて、適宜、提示する。